

『哲学の探求』バックナンバー紹介

*定価が付されているものは在庫があります。

*購入を希望される場合、世話人までご連絡ください。

第1号

発刊の辞

シンポジウム

●現代における人間と哲学(名古屋) ●

芝田進午氏の科学労働論について(東京)

●哲学史研究の方法と課題(京都) ●現代

観念論の諸形態(北海道)

研究発表

●カントにおける Subjekt の問題/太田

直道 ●ヘーゲルにおける歴史主義と芸術/

毛津和夫 ●唯物論的分析論/近藤良樹 ●

「対象の主体的把握」について/高田純

●フョイエルバッハの唯物論の規約性/岩

瀬充自 ●戸坂潤のイデオロギー論/吉田

傑俊 ●現代労働とマルクス主義哲学の問題

論/鈴木富久

第2号

250円

シンポジウム

●哲学の対象と方法(京都・北海道) ●

現代における人間の自由(東京・名古屋)

研究発表

●仏教と思想史研究の方法/田中暢志

●フョイエルバッハの感性概念とチェルイ

ジェフスイーの芸術論/北島義信 ●意味

と概念/尾崎周二 ●欲望について/中原

三郎 ●初期ヘーゲルの道徳と人倫/池田

正平 ●ライプニッツの哲学の基本性格/

中河豊 ●ヘーゲル『論理学』における「判

断」と实在/奥谷浩一 ●カントに於ける

人間の理性と自由/谷治美 ●ヘーゲル認

識論の基本性格について/太田哲男 ●ヘ

ーゲル哲学に於ける認識の構造/横田栄一

第3号

シンポジウム

●現代における個人の問題(東京・北海

道) ●科学的精神の形成について(東海・

大阪)

研究発表

●松川事件と思想の問題/木下英夫

●プラグマティズムのコミュニケーション

論/吉田充治 ●ヘーゲル矛盾概念の批判

的分析/島崎隆 ●カントにおける人間の

有限性の問題/岩崎龍太郎 ●ヘーゲル論

理学における概念について/牧野広義 ●

フョイエルバッハにおける「対象化」概念
の展開/亀山純生 ●『資本論』の方法と
『法哲学』の方法/両角英郎 ●ヘーゲル
の「主観的精神」と概念把握/谷口孝男

第4号

シンポジウム

I. 民主主義の哲学的諸問題(東海・関
西) II. 事実と価値(関東・北海道)

研究発表

●古代原子論の発展/小玉知史 ●判断

力批判における「自由と自然の統一」と「構

想力」/高橋顕 ●カントにおける「多様

の総合的統一」という考え方について/鈴

木恒夫 ●ヘーゲルの「因果性」批判につ

いて/岡本伸一 ●ハイデガーのにおける

「現象学」/植村恒一郎 ●ヘーゲル精神

現象学における「経験」について/笠尾良

三

第5号

500円

シンポジウム

I. 歴史と理性-ドイツ古典哲学の歴史

的意義 ●ドイツ古典哲学における人間の

活動性の把握と人間の自己産出としての歴史

・人倫態/北海道(横田栄一) ●実践理

性をめぐって-カント哲学の批判的継承の

ために-東海(中河豊) II. 社会意識と

実践 ●カール・ポパーとマルクス主義/

関西(牧野広義) ●M. ウェーバーにお

ける社会科学と価値理念の相互関係について

/関東(岩尾龍太郎)

研究発表

●アリストテレスにおける Energeia の諸

相/永都軍三 ●カントにおける歴史と人

間/森下直貴 ●J・Jルソーにおける『情

念』概念の構造/古茂田宏 ●ヤスパース

の『カントの理念論』解釈について/新田

孝彦 ●日本近代哲学における現実主義/

田平暢志 ●実践的唯物論と美の主体的把握

/志田昇 ●『経哲草稿』における疎外

感の論理構造とその性格/佐藤春吉

第6号

500円

シンポジウム 現代の疎外

●報告・現代社会の疎外状況という新

しいコミュニティ形成の運動(関西) ●報

告・社会主義における疎外(関東)

研究発表

●ヘーゲル『法の哲学』における「行為」

と「道徳」/橋本信 ●ヘーゲルにおける

思惟と存在の同一性と論理学／勝木 吐夢
●ヘーゲルの自己意識と無限性／石橋とし江
●ヘーゲルにおける人倫的実体の問題性／赤井正二 ●カントにおける実践的先天総合命題の問題／杉田聡

第7号 500円
シンポジウム 情念と理性—現代の文化状況と主体の確立—

●報告・近世哲学における情念と理性—「受動」の概念と手掛かりとして—／関東(古茂田宏) ●報告・現代における情念と理性—主体形成論とのかかわりをめぐって—／関西(福山隆夫)

研究発表

●カントにおける「心理学」の問題／石井深 ●カント『宗教論』について—有限理性的存在者の二重性と倫理的共同体—／小野寺玲子 ●サルトルの現象学／水野浩二

第8号 600円
シンポジウム 現代における理性と主体

●報告・生の世界の相関における「自己意識」としての理性—フッセルの「近代合理主義批判」および「相互主観性理論」を手引きとして—／東北(小熊正久) ●報告・近世哲学における理性と主体に関する試論—人類性=科学性的の観点から—／関東(寺田元一)

研究発表

●ヘーゲルの推理的媒介に関する一考察／竹内章郎 ●ヘーゲルにおける現実把握と「転倒」概念／小池直人 ●ヘーゲルにおける観念的なものとの実在的なもの／石橋とし江 ●ルカーチ演劇論における人間把握／吉田正 ●ハイデッガーと世間の問題／横松隆夫

発表要旨

●ヘーゲル弁証法への一試論／伊坂青司

第9号 600円
シンポジウム 主体と共同性

●報告・共同主体から諸主体の共同へ／北海道(横松隆夫) ●報告・和辻倫理学批判のために／関東(池田成一)

研究発表

●カントと身体の問題—「第一批判」についての覚書—／溝井真知子 ●ヘーゲルの矛盾論、矛盾の原理的意義の把握／川口

民記 ●初期ヘーゲルの「実践理性」の問題について／山口誠一 ●カルナップの「世界の論理的構築」に於ける色構成／森田茂行 ●ニュートン理論は反証可能か—境界設定問題と方法論—／植木哲也
テーマ別分科会

●物質と意識／中島英司 ●女性論／杉田聡

第10号 600円
シンポジウム 認識と価値

●報告・価値認識における客観性の問題／関西(大塚賢司) ●報告・認識と価値—イメージ論の視角から—／関東(森下直貴)

研究発表

●ヘーゲルの判断論に関する一考察／木村博 ●ヘーゲルの推理論と弁証法的認識の構造／武田一博 ●Schema 改訳の試み(「図式」から「原型」へ)／大西光弘 ●スピノザにおける感情制御の問題／真田郷史 ●直観主義と数学の本性／金子洋之

テーマ別分科会

●日本文化の可能性／小池直人 ●女性論／石川伊織 ●科学とイデオロギー／石井深

第11号
シンポジウム いま哲学は何をなしているか

●報告／関東(石川伊織) ●シンポジウムのまとめ／東北(伊坂青司)

研究発表

●明証と意識流／尾形敬次 ●価値の論理は可能か—内包的論理体系の構成可能性について—／高橋要 ●マルシリオ・フイチーノの魔術論／伊藤博明 ●ヘーゲルの無限論について／于場薫 ●ライブニッツからカントへ／大西光弘

テーマ別分科会

●物質と意識／石井深 ●日本文化論／福山隆夫 ●言語論／武田一博

第12号
シンポジウム 哲学にとって「現実」とは何か

●報告 現実世界の实在性認識方法—相對主義の諸問題と实在論の可能性—／武田一博 ●報告 転換期の時代とパラダイム論／井上文人 ●報告 科学論と科学活動の関係を通しての考察／佐野正博 ●シンポジウムのまとめ／豊泉周治

研究発表

●知覚における直接性試験／伊勢俊彦
●相対主義と歴史の問題—ハーバーマス
近代化論の批判的検討—／加藤泰史 ●技術
(生産)と生活／菅野啓 ●サルトルの全
体化理論と主奴の弁証法／上利博規
テーマ別分科会

●日本文化論／細谷実 ●科学と哲学
／森田茂行 ●女性論／石橋とし江 ●物
質と意識／中畑正志

第13号 700円

シンポジウム 合理主義の再考

●報告 脱合理主義としての哲学／上利
博規 ●報告 ウェーバー(合理化)論への
批判を手掛かりとして／小池直人 ●シン
ポジウムのまとめ／石川伊織

研究発表

●ハイデガーの『ニーチェ』／西野真由
美

テーマ別分科会

●物質と意識 感覚に現前するものとは
何か— 哲学的知覚論の枠組み— /伊勢俊彦
『哲学の探求』終目次

第15号 800円

シンポジウム 自己意識の再検討—競争と コミュニケーション—

●報告 競争と差別の論理／細谷実

研究発表

●ヘーゲルの「懐疑主義」について／木
村博 ●カントと超越論的論証の問題／遠
藤寿一 ●ヘーゲルの「精神」概念をめぐ
って／小池直人 ●良心論における和解の
問題／日暮雅夫 ●科学と哲学／山崎広光
●言語論／小林望 ●男性論／満井裕子
●日本文化論／中山一樹 ●経験論と形而
上学／伊勢俊彦 ●ヘーゲル／千場薫 ●
フランクフルト学派とルカーチ、ウェーバー、
マルクス／福山隆夫 ●創立十五周年に寄
せて／石井伸男、古茂田 宏

第16号 700円

シンポジウム 言語論的転回とは何か

●報告 意味と実在／伊勢俊彦 ●報告
《言語論的転回》とは何か—アーペル、ハ
バーマスを中心に—／庄司信 ●シンポジ
ウムのまとめ／平田一郎

研究発表

●趣味判断の主観的普遍妥当性—カント
における〈共通感覚〉—／水野邦彦 ●ヘー

ゲル、ヘルダーリン、シェリング—『ド
イツ観念論最古の体系計画』の著者問題に
ついて—／寄川条路 ●還元主義に於ける
言語と事象—「科学的基礎付け」と「科学
化」を巡って—／平田一郎 ●『物質と記
憶』第一章における傾向の分析／河津邦喜
●言語と認識／遠藤寿一 ●ポスト伝統的
法=道徳を考える／千場薫 ●『日本靈異
記』をめぐる／頼住光子 ●日本文化の
宇宙論的位相／木村博

第17号 700円

特別報告 感情について

●報告 パトスのロゴス負荷性とロゴス
のバトス負荷性／古茂田宏 ●特別報告の
まとめ／細谷実

テーマ別分科会

●言語論—信念を巡って／平田一郎
●日本文化論／石川伊織 ●男性論—男性
の自己解放について／遠藤寿一

個人研究発表

●ドゥルーズの『意味の論理学』／河津
邦喜 ●利潤率低下法則の「傾向性」につ
いて／増田和夫 ●近代経済学の方法論史
と経済学・数学論の認識論史／大西宏 ●
フィヒテの言語論／木村宏 ●ヘーゲルに
おける「絶対者」の "Reflex" / 杉田広和

第18号

シンポジウム 言語と認識

●報告 なぜ、カントは言語哲学を書か
なかつたのか／黒崎政男 ●報告 実践的
推論について／平田一郎 ●シンポジウム
のまとめ／千場薫

研究発表

●コギト問題に関する一考／太田学
●カテゴリーの演繹における構想力—『純
粋理性批判』第二版の演繹を中心に—／石
井稔 ●哲学、宗教、政治—ヘーゲルの思
想的転回—／寄川条路 ●「絶対的否定
性」の構造と個体化の地平の開示—ヘーゲ
ルの仮象論—／黒崎剛

テーマ別分科会

●自然史における人間—主体としての
自然と人間—／稲生勝

寄稿

●ジル・ドゥルーズの『差異と反復』に
ついて／河津邦喜

第19号 900円

シンポジウム 全体観と哲学

●報告 現代自然科学の全体観—現在自然科学における弁証法的自然像—/稲生勝
●報告 プロセス哲学の有機体論/平尾始
●シンポジウムのまとめ/黒崎剛

研究発表

●「蜜蠟の分析」についての考察/吉田健太郎 ●「包摂」について/永井俊哉 ●理性と幸福—C.ヴォルフ『ドイツ語倫理学』第一部第三章の紹介/菅沢龍文
テーマ別分科会

●やさしいということについて/太田学 ●デカルト『情念論』に於ける<passion>理解をめぐって/美頭千不美 ●近代日本における「哲学」の問題/平山洋

第20号

シンポジウム 自然と人間—その倫理的考察— ●報告 プラトンの技術観/小野木芳伸 ●報告 カント哲学の限界内における環境倫理学の可能性/小野原雅夫 ●報告 日本における自然と人間—その倫理的考察—/平山洋 ●シンポジウムのまとめ/頼住光子

テーマ別分科会

●種差別か、しらすば能力差別か?—ピーター・シンガーはいかにして障害新生児の安楽死を擁護するか—/土屋貴史 ●デカルト『情念論』に於ける<passion>理解をめぐって/美頭千不美 ●ウェーバー社会学における物象化論の位置/鈴木宗徳

研究発表

●ヤスパースの「超越論的」感性論—『哲学的論理学・遺稿』よりカテゴリー論をめぐって—/今本修司 ●アランのシーニュ論/河津邦喜 ●超越論的システム論の可能性/永井俊哉 ●ウェーバー研究は何を求めているか/橋本直人

第21号

シンポジウム 道徳の根拠

●道徳の求めに従うわけ(理由)/大庭健 ●大庭健「なぜ道徳を気にしなければいけないか」の批判/永井均 ●道徳的根拠の妥当性の基礎付けに向けて/永井俊哉 ●シンポジウムのまとめ/土屋貴志

研究発表

●「ホワイ・ビー・モラル?」の答え—客観主義への批判—/三石穂憲 ●カント道徳哲学における定言命法の意義—定言命法は道徳的判定のテストたりうるか—/矢嶋

直規 ●歴史と認識/松本俊吉

第22号

1000円

シンポジウム 認識論はどこへゆく?

●存在論と認識論/鬼界彰夫 ●認識論における>基礎づけ主義<と>反基礎づけ主義<との攻防/松本俊吉 ●シンポジウムのまとめ/美頭千不美
ディベート&ディスカッション

●自由と規範—積極的安楽死を認めるべきか—積極的安楽死容認の根拠について—ディベート肯定側立論および補遺/金澤秀嗣・平出晋 ●積極的安楽死を認めるべきか—否定側提題/橋本直人・鈴木宗徳 ●ディベート&ディスカッションはいかにして若手ゼミで行われたか/土屋貴志

研究発表

●芸術の可能性—ハイデガーを手引きとして/小柳美代子 ●人間の自然と道徳—ヒュームにおける道徳の基礎づけをめぐって/矢嶋直規 ●ハンナ・アレントにおける「判断力」概念/今本修司 ●不法支配に対抗するための法哲学新しい自然法—近代自然法論と法実証主義を越えて—/金澤秀嗣 ●義務としての最高善—その「道徳的意義」へのアプローチ/清水明美

第23号

1000円

シンポジウム 近代の人間モデルとフェミニズム

●フェミニズムと決断の主体/田崎英明 ●ヘーゲルと近代的個人/石川伊織 ●「プロレタリア」概念の再構築—「フェミニスト世界システム論」の視覚から—/古田睦美 ●報告/細谷実

ディベート&ディスカッション 自由意志に基づく売春なら悪くないか

●「単純売春の非犯罪化に向けて」—刑事政策論的展開と法哲学的アプローチ—/金澤秀嗣 ●さまざま魂「分析批評」による「守り歌」/中村裕子 ●報告/河野哲也

個人研究発表

●フェミニズムと科学論の界面を議論するための試論—若干の文献紹介と、簡単な研究プログラムの提起—/塚原東吾 ●理性批判と神/森禎徳 ●カントの超越論的観念論/野内聡 ●社会理論における二項対立の統合を目指して—ブリュデュー理論の研究実践への方法論的展開—/三浦直子 ●言語における「理解」と「知識」/

前田泰樹 ●緒『視点』という著作の本質について／斉藤彰範 ●「現代倫理学」と教育学の接点／小幡啓靖

第 24 号 1000 円

シンポジウム 宗教をどう捉えるか

●ニーチェのニヒリズム批判／千葉一弥 ●開かれた宗教を目指して／森禎徳 ●社会学的「宗教研究」批判の試み—現代の家族変容と新宗教—／三浦直子 ●ドグマとカオスの間で—シンポジウム「宗教をどう捉えるか」まとめ—橋本直 特別報告 ディベートについて考える

●報告／藤田祐一

個人研究発表

●『判断力批判』における快の感情について／甲田純生 ●フッサールにおける述定意味—前期ハイデガーとの比較考察—／星揚一郎 ●ハイデガーの真理概念—トウゲントハットによる批判を中心に—／佐々木護 ●現代社会とエントロピー／松本俊吉 ●ヘーゲルの知られざるトリアデー『精神現象学』の理念型—／小屋敷琢己 ●カントの空間概念について—『純粹理性批判』超越論的感性論の考察—／近堂秀 ●ニーチェの言語論／千葉一弥

第 25 号 1000 円

創立 25 周年特別企画 若手ゼミ創立まで

●「若手哲学ゼミ」25 周年に寄せて／吉田傑俊 ●「若手ゼミ」創設の想い／吉田千秋

シンポジウム アートを哲学する

●哲学と神学のはざま—美と芸術の形而上学の歴史を展望する—甲田純生 ●老いと美—アドルノ、ドヴォルジャックの「晩年様式」論—／三崎和志 ●「アート」の概念を問いなおす—現在の流行現象を中心として—／石田香里 ●シンポジウム報告と討論のまとめ／小柳美代子

個人研究発表

●喜劇的なものの否定力—ヘーゲル美学に関する一考察—／河野正宏 ●反省と形而上学—ヘーゲル「仮象」の論理の一解釈—／大河内泰樹 ●情緒的直覚主義における一考察—M・シェラー「倫理学における形式主義と実質的価値倫理学」—／上村崇 ●デカルトにおける懐疑主義の克服／久保田進一 ●「弁証法」とエクリチュール—デリダがフッサールから学んだもの—／村田憲郎 ●写真の喚起力と破壊力—

写真のメディア論のために—／小屋敷琢己 ●ヨハン・ベルヌーイによる力学の原理の探求—自然学としての力学—／野澤聡

第 26 号 1000 円

シンポジウム 身体論再考の試み

●「身体論再考」について／河野哲也 ●身体の現在／福田泰子 ●身体技法の共有と「キモチ」の共有—東京エイサーシンカを事例に—／小林香代

個人研究発表

●ホワイトヘッドの哲学についての若干の考察／中村友 ●実質的正義の追求といわゆる濫及効の禁止について—クラーフトブルフの公式>をめぐって—／金澤秀嗣 ●人間と有機体の存在論的差異—ハイデガー有機体論の意義と射程—／斎藤元紀 ●ニーチェの「人間」批判—ドゥルーズ『ニーチェと哲学』再読—／村田憲郎 ●「取り囲む」こと—『探究』の Umgebung 概念をめぐって—／水本正晴

第 27 号 1000 円

テーマレクチャー 時間論

●『時間と意味』（講演要旨）／斎藤慶典 ●アリストテレスの<今>—『自然学』時間論の<現在主義>—／篠澤和久 ●人格の時間的同一性と責任／弓削隆一

個人研究発表

●時間に関してオズマ問題は存在しないか／拍端達也 ●『純粹理性批判』における理性の関心—理論的理念をめぐって—／西村名穂美 ●時計に表される時間／氷川雅則 ●自我の階層性と時間の理解／福田敦史 ●「比較」の技法—パラボレー、エイコン、シミリトゥード、イマーゴ—／星屋雅博

第 28 号 1000 円

テーマレクチャー 道徳の根拠

●道徳の“根拠”／大庭健 ●齷さず、怯えず—倫理の理由律の倫理／小泉義之 ●自由—民主主義道徳の根拠／笹澤豊

個人研究発表

●われわれと違う真理概念を考えることは可能か／岩沢宏和 ●「倫理学の自然化」をめぐって—クワインとフラナガンを中心に—／木島泰三 ●趣味判断批判の論点—主観的原理の発見が認識批判にもたらすもの—／北野安寿子 ●信念文の論理形式について—信念文のバズルに対する単文のバ

ズルの影響／小山虎 ●情動的態度—ベルクソンから情動の現象学へ／塩野直之 ●デネットの意識理論？／鈴木貴之 ●初期ラッセルにおける、認識論と存在論の関係について／高村夏輝 ●連鎖式パラドックスとその解決：概要／吉満昭宏

第 29 号 1000 円

テーマレクチャー 科学時代の哲学

●科学と哲学—自然主義の限界と哲学の役割／小林道夫 ●科学(者)の中の哲学(者)—哲学の生存戦略とそのアジェンダ／戸田山和久 ●哲学は「二流の科学」か？／野家啓一

個人研究発表

●ロックの一次・二次性質—パークリーの批判に答えて／青木滋之 ●動物は思考しうるか？—解釈主義的観点からの思考と言語の関係に関する考察／金杉武司 ●はしごをけつとばす—規則遵守論と懐疑論／壁谷彰慶 ●発話及び発話理解における合理性—グライスの協調原理について／川口由起子 ●時間の現在主義の可能性—様相と時間の平行性をもとに現在主義は擁護可能か？／小山虎 ●モメントとは何か—形式的存在論からの帰結／染谷昌義 ●一般化への要求と経験の局所性—化学物質の許認可という事例を通じて／西村名穂美